



モバイルライフ探訪



当世モバイル探偵術指南！

私立探偵の現場では モバイルアイテムが大活躍

ストーカーやピッキング、盗聴器などの身近な犯罪の解決から、浮気や債務債権関係などの各種調査まで幅広くこなす私立探偵。今や探偵の仕事はそれだけにとどまらず、人間関係をめぐるあらゆるトラブルの処理まで請け負っているという。その私立探偵の仕事の現場では、各種モバイルアイテムが大活躍しているのだ。

今回は都内で中堅の探偵事務所を開いたばかりの日比竜也さんに登場していただいた。最近のテレビや雑誌では、華やかに取り上げられる探偵稼業だが、実際のところはいったいどのようなものなのだろう？

JINBUTSU-ZUKAN

探偵のモバイルアイテム拝見

東京の清瀬市にあるごく普通の家族用アパート。この一角に日比さんの経営する＜日本調査情報センター東京多摩事務所＞はある。

「近々、近郊のマンションなどに移る計画もあるのですけど」

と頭をかきながら迎えてくれたのが所長の日比さん。身長180センチをはるかに越える大男である。＜日本調査情報センター＞とは東京・本郷に本部を構える中堅探偵社で、そのネットワークは全国規模。日比さんはその中の東京多摩方面の担当事務所の所長というわけなのだ。

文・撮影●石川 清

text and photo by Kiyoshi Ishikawa

今号の人

日比 竜也さん (23)

日比さんは若いが、すでに2人の子持ち。愛車は国産最高級車のセルシオだ。「でもセルシオだと目立ちすぎて張り込みには不向き。仕事用にハイエースを買いました」。日本調査情報センター東京多摩の連絡先は、
電話：0424-58-7735、email：jri-tama@jcom.home.ne.jp、
URL：http://members.jcom.home.ne.jp/jri-tama/
まで。都内だけでなく全国各地の依頼・相談も受けるという。



「フランチャイズ方式で、私はまだ今年の春に加盟したばかりなのですが、おかげさまでけっこう大仕事の依頼もいくつか受けています」

とにかく何よりも探偵アイテムを拝見させてもらうことにしよう。

「一昔前の探偵に比べたら、今は小型のIT機器をたくさん使っています。尾行や張り込みなどで出歩くことが多いので、小型なモバイルタイプが多いのが特徴です」

まず探偵稼業に不可欠な存在となったのがパソコン。日比さんは今年6月にPentiumⅢの1GHzを搭載した東芝のノートパソコンDynabookを購入。独立を期して、それまでのノートパソコンのVAIOから大幅にパワーアップさせた。

「今や仕事の依頼のほぼ全てはインターネット経由できます。まずホームページを見てから、それで電子メールや電話で問い合わせをしていくというものです。このため、ホームページのメンテナンスや更新、それにメールチェックは必須なのです。特にメールチェックは重要です。問い合わせメールが来たら、即座に対応しないと受注にはつながらないからです」

仕事の依頼や問い合わせの8割は、今や携帯電話のメールアドレスから送信されてくるという。依頼者は電話の感覚でメールする。1カ所の探偵事務所からすぐに返事がなければ、依頼者はすぐに別の探偵社に乗り換える。このため、すぐにその場で対応する誠意を見せて、依頼者の不安を即座に解消することが仕事を受注する重要なポイントとなっているのだ。

「だから、外出先でも可能な限りノートパソコンを持参して常にメールチェックしています。自宅ではケーブ

ルテレビ経由の高速回線でネットに接続していますが、出先ではもっぱらNTTドコモのカード型PHS、モバイルP-inでネットにアクセスしています。パソコンが持ち歩けない時は、iモードなどの携帯電話端末にメールを転送してチェックしています」

さて、携帯電話だが、日比さんはNTTドコモ、au、J-フォンの3社の端末を持つ。

「ドコモは仕事用で、打ち合わせの連絡や位置情報サービスの使用、iモードでのメールチェックなど、メインで使っています。J-フォンはお客様に伝える番号です。お客様との連絡は、基本的にこのJ-フォンで行っています。そして、auは主に個人用で家族や友人との連絡に使います」

しかし、auの端末にはもうひとつ重要な使い道があった。メモ用のデジタルカメラである。

「カシオ製A3012CAを使っていますが、これには35万画素のデジカメがついているのですよ。便利です。尾行中に車のプレートナンバーとか、調査対象者の顔写真とか十分鮮明に撮れますから。しかも普通のカメラと違って、電話をかけるふりをしてさりげなく撮影できるので、調査用にもってこいなのです」

JINBUTSU-ZUKAN

携帯電話が盗聴マイクに!?

携帯電話の用途はそれだけにとどまらない。

「実はもう一つ、重要な役割があるのですよ。うちの会社で開発したこの『携帯電話用盗聴マイク』を携帯電話のジャックに取り付けると……なんと高性能盗聴器に

日比さんのデスク。このノートパソコンで仕事の受注や追跡機の記録などを行う。レポートももちろんこれでまとめる



日比さんの3台の携帯電話。右端のauの端末は大事なデジカメ代わりにもなる





携帯電話につなぐだけの窃听器。このタイプの窃听器は普通の窃聴発見器では見つけられない



CF型PHSは出先でのネットへのアクセスに必須のアイテム。現代の探偵にとってモバイルアイテムは必要不可欠

早変わりしてしまうのです」

実際にこの窃聴マイクを携帯電話に取りつけて実験してみた。すると、例えば乗用車の中では、車内の会話を実にはっきりと聞くことができた。使用法は簡単で、窃聴マイクを取りつけた携帯電話に外から電話すればいいのである。この時に着信音はあらかじめ切っておき、自動受信モードにしておく。

実験では、驚いたことにラジオから流れる音などの雑音はカットされて、人間の肉声のみをクリアに拾い取っていた。

「あらかじめ人間の声の周波数にあわせて調節してあるのですよ。だから、ラジオの音など異なった周波数の音には反応しないのです。携帯電話なので普通に置いておいても違和感がないし、車の走行中でも窃聴できるので、浮気調査などで大きな効果をあげます。しかも、こちらから電話することで窃聴するシステムなので、遠隔地からでも容易に窃聴することが可能です」

唯一の問題点は、電話料金がかかることである。しかし、これは携帯電話だけでなく、PHSでも使えるので、PHSのトランシーバモードで利用すれば、電話料金はかからない。

GPSや携帯・PHSなどの位置情報検索システムを応用した“追跡機”も重要なアイテム。これを尾行相手の荷物や車などに潜ませておけば、手元のパソコンの地図ソフト上で相手の位置が一発でわかるのだ。

「浮気や素行調査などで効果を発揮します。ラブホテルにいる、などの位置情報がピンポイントで記録されますから。しかも、これだけを利用しての追跡調査の場合、尾行の探偵をつける必要がないので、お手頃な価格

で浮気調査などを行えるのも特徴です。ただし、依頼者自身が追跡機を仕掛けるなどの協力が必要となります」

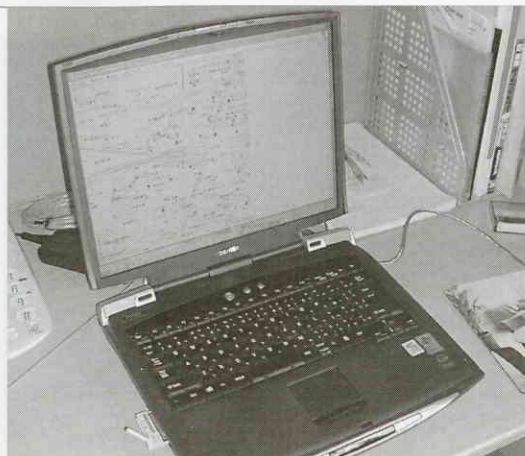
窃聴発見器も今や重要な探偵アイテムの一つである。

「私たちが使っている窃聴発見器には、主に2種類あります。ひとつは広い帯域の電波を受信できるタイプ。これはモニタ付きで、映像電波の受信も可能。盗撮電波の感知に大きな威力を発揮します。もうひとつはあらかじめインプットされている窃聴器用の電波周波数を自動的に切り替えながら手軽に探索するもので、窃聴器に近づくとハウリングします。ハウリングの強弱を利用して隠された窃聴器を見つけるものです」

市販の窃聴器は、VHFで139.940、139.970、140.000MHz、UHFで398.605、399.455、400.000MHzなど、ほぼ周波数が決まっている。そんな窃聴器は、今やプロの手にかかれば一発で見つかってしまうのだ。

「他にはICレコーダやデジタルビデオカメラも探偵稼業の必需品ですね。ICレコーダは、私はSIMS製のSVR-S1335を使っています。小型ながら12時間の長時間録音ができる優れものので、尾行の途中に目に付いたもの、対象者の様子など、すべてICレコーダに録音し、後で起こして報告書の作成に使います。メモ帳の類はほとんど使わないですね。

またデジタルビデオカメラは、現場の証拠映像を押さえるほか、周囲の状況の様子などメモ代わりに細かく撮影します。例えば張り込み現場の周囲の状況の撮影はとても重要で、別の人に張り込みを引き継ぐ際にいちいち説明しなくても、あらかじめ現場の様子を容易に知ることが出来ますから。報告書の作成にも大いに役立ちます」



追跡機から送られたデータは自動的にパソコン上の地図ソフト上に記録される。簡単な行動調査はこれで十分



盗聴発見器。左は盗撮電波にも対応。右は自動的に盗聴電波を発見するタイプ

JINBUTSU-ZUKAN

深夜の田んぼ道を3km激走！

さて、ここで日比さんに現場での苦労話を披露してもらおうことにしよう。モバイルをどんなに駆使しても、探偵稼業の第一はまず肉体を酷使することなのだ。

「探偵への依頼はやはり浮気調査が多いです。先日も29歳の女性から、自分と付き合っている32歳の彼氏の様子がおかしいから調査してくれ、という依頼を受けました」

彼氏は、せっかくの日曜日というのに「仕事が忙しい」とか「取引先との付き合い」と称して彼女と会わないという。そこに女性特有の勘で、女の存在をかき取ったのだ。依頼は、彼氏を尾行して、もし女性と会っているのなら、女性の身元や連絡先も調べてほしい、というものだった。最近は夫婦だけでなく、このように結婚前の付き合い合っているカップルからの依頼も増えているという。

「デジタルビデオカメラなど探偵アイテム片手にさっそく次の日曜日に彼氏の尾行を開始しました。この時は私と助手の2人で尾行をしました。朝の7時頃から家の前で張り込んで、家を出てきたのが10時過ぎ。人通りのない道では数十m離れてゆっくりと、駅前の混んでいる場所では距離を詰めて、助手と交代でピッタリ尾行したわけです。途中、携帯電話やメールで連絡を取り合って、行き先に先回りしたりしました」

対象者（マルタイ）は池袋駅前の喫茶店で20代半ばとみられる女性と待ち合わせをしていた。日比さんは持参した携帯電話のデジカメでその様子をしっかりと撮影。

その後、2人は映画館に向かい映画を鑑賞。日比さん

たちはピッタリと2人をマーク。2人は尾行に気づかずに、夕方には並んで居酒屋へ入った。

「問題はその後でした。2人は親しい様子を見せながらも、この時はラブホテルなどに入らずに、夜に別れたのです。そこで私たちは女性のほうの尾行を開始したのですが、なんと彼女はとんでもない遠隔地に住んでいたのです。茨城県のかなり奥地で、常磐線からさらにローカル線に乗り換えないと行けないところでした。女性が降りた駅前にはほとんど商店はなく、あたりは田んぼ。すでに夜の11時を回っていて、真っ暗でした」

日比さんたちは相手に気づかれぬようにゆっくり列車を降りた。マルタイの女性はそのまま駅前の自転車置き場へ向かい、婦人用の自転車に乗って、駅の正面の道をゆっくりと走りだした。

「あせりましたよ。こっちは歩きで、おまけに重い機材持参なのですから。でも、仕事ですから仕方なく走って女性を追いかけ始めたわけです」

現場はどこまでも一直線の両側田んぼ道。そこを舞台に深夜のあてのないマラソンが始まったのだ。

「最初はせいぜい数百mと思っていました。しかし、5分、10分と走り続けても、マルタイは停まる気配はありません。だんだん人家は見えなくなってくるし。相手は物の怪か何かじゃないかとも思いはじめましたよ」

幸い、街灯はごくまばらにあるだけの真暗の闇の中で、自転車から50mほど離れて走っていたので、相手に気づかれなかった。途中、他の通行人ともすれ違わなかった。また、相手が居酒屋で酒を飲んで酔っていたために、自転車をゆらゆらと運転していたので、全力疾走する必要はなかった。

「それでもいつ果てるともない追跡走だったわけですよ。途中で何度も息が上がって死にそうになりましたよ」

結局、マルタイの家は駅から3kmほどのところ。実に30分近く走り続けたのである。とにかく、こうして見事に依頼目的を果たした。

「実は私は機材袋を持っていたこともあって、助手に“絶対最後まで走れ”と言いきり、早々にダウンしていたのです(笑)」

ちなみに追走の間もずっとICレコーダにマルタイの様子を吹き込みながら走っていたのは言うまでもない。おそらく、激しい息切れでさぞ聞きにくかったことだろう。

JINBUTSU-ZUKAN

別れさせ工作!?の実態

探偵をしていると思われぬ依頼が舞い込むことがある。そのひとつが“別れさせ工作”だ。

「これは最近増えてきた依頼で、元々はストーカー対策のようなものでした。生活に支障をきたしたり、自分に恐怖感を与えるような過剰な異性のつきまといをやめさせる依頼のことです。しかし、最近は夫婦や恋人たちを別れさせてくれ、という依頼が目立ち始めてきています。自分たちでは人間関係を作ったり、離れたり、維持していくのが難しくなって、第三者にその調整や工作を頼むというものです」

別れさせ工作のパターンは大きく分けて2つ。ひとつは、恋人や夫婦の一方からの依頼で、自分たちを別れさせてくれ、というもの。例えば離婚に応じたくない妻と別れたい、とか、激しい家庭内暴力(DV)をふるう夫と別れたい、などだ。

もうひとつは、第三者がカップルを別れさせてくれ、

と依頼してくるものだ。自分をもてあそんで捨てて金持ちの令嬢と結婚した男を別れさせろ、とか、妻を浮気相手の男から別れさせてくれ、などの依頼である。

「これは依頼者の言うことが正しいかどうか、など確認の調査をしないとけません。ストーカーが依頼してくる場合もあり、そのような依頼を受けて工作を行うと犯罪になる危険性もあるからです。

依頼者の言い分が正しいと確認できたら、正式に動き出します」

つい先日にも次のような依頼があったという。30代前半の商社マンからの依頼だった。この商社マンは20代後半のOLと付き合っているのだが、このOLは自分の他にもう一人、30代のエンジニアと付き合っている。ようするに三角関係だ。商社マンはOLとの結婚を考えており、なんとかエンジニアと別れさせてくれ、というのである。

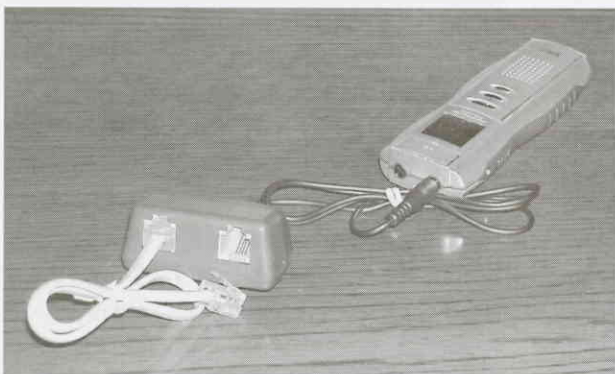
「OLは二股を公言していて、両方と肉体関係があります。二股かけられたと知りながら、惚れた弱みで別れられないわけですね。このケースでは、別れさせ工作専門の女性調査員を使うことにしました」

この女性調査員は20代後半。ターゲットの二股の片割れであるエンジニアに接触させて、エンジニアに恋愛感情を抱かせる。つまり、エンジニアの気を惹いて、自分からOLと別れるようにもっていかそうというのだ。男性調査員を用いて、OLの気を惹くことも可能だが、依頼者はOLとの結婚を希望しているため、この方法をとると依頼者を裏切ることになる。そこで日比さんは女性調査員を用いることに決めた。同時にターゲットの生活習慣、行きつけの飲み屋などを調査。自然に調査員がターゲットに接触できるシナリオを考えたのである。

「別れさせ工作の場合、状況に応じてターゲットと深

電話回線とICレコーダを連結。通話があった時だけ自動的に会話を録音できるアイテムだ

尾行や張り込みの際に収集した情報はこうやってICレコーダに素早く録音する。手のひらにスッポリ隠れる超小型





愛用のデジタルビデオカメラ。映像は決定的な証拠になるので必須アイテム。さらなる小型化が望まれる

い関係になることがあります。これは調査員の判断に任せることにして、強要はしません。調査員への報酬は原則として案件ごとに基本給プラス成功報酬方式をとっています。

実際の仕事の具合ですか？ ほとんどの工作の場合、成功します。このケースでもOLとエンジニアを別れさせるのに成功しました。商社マンとOLが結婚できたかどうか、までは確認していないのでわかりませんが」

別れさせ工作を完了した調査員は工作完了1か月ほどでターゲットの前から姿を消す。調査員の名前や住所は全て架空のものなので、後に尾を引くことはない。1か月としたのは、すぐに消えると元サヤにおさまる危険性があるからだ。

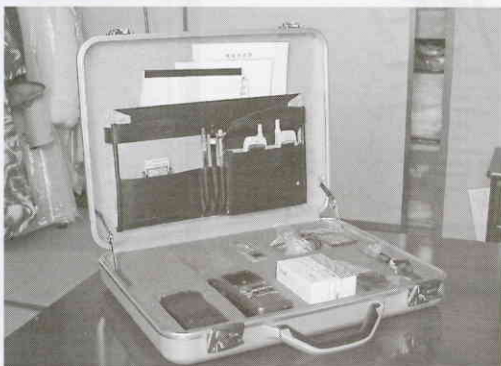
「複雑な今の社会では、自分で人間関係をコントロールできない人たちが多数生じるのは仕方ないことと思います。私たちは、そんな現代人の人間関係にまつわる悩みやストレスを軽減する手伝いをしているわけです。良い悪いは別にして、大きなニーズがあるのは否定できません」

一連の別れさせ工作でもモバイルアイテムが大活躍す

手前の二つは盗聴発見器。奥にはICレコーダや盗聴器類が。耐ショック性も十分のケースを持てば気分は007



ゼロハリバートン仕様のスーツケース。探偵に必要なIT機器ワンセットが収納できる



スーツケースの中には盗聴発見器やICレコーダ、盗聴器、報告書、契約書などのアイテムがギッシリ

るのは言うまでもない。

私立探偵というと、単に尾行したり、行方不明の人を捜したりするだけの仕事だと思うのは、大きな間違いだった。

モバイルをはじめとした通信機器の発達で、現代に暮らす私たちの人間関係はこれまでにない大きな広がりや複雑さを見せている。出会い系サイトについては賛否両論あるが、これを利用すればこれまでなら決して出会うはずもなかった人たちが気軽に会える“現実”は否定できない。そして、もはや私たち自身にはこの複雑怪奇な人間関係の全てをコントロールする能力はないのである。

日比さんたち探偵は、そんな現代人の人間関係の隙間を埋める諸々の仕事を請け負っている。発達したモバイルアイテムの数々を駆使しながら。

今日も日比さんはどこかの街頭に立って張り込みを続けているのである。

著者プロフィール

石川清●日比さんの事務所は、実は私の家の近所。今回は特別に秘密の探偵術を暴露してもらった。感想はQWR01406@nifty.ne.jpまで。